



いずみの里



清水小宣言 「さわやかなあいさつをかわします」「進んで人のために働きます」「友だちを大切にします」

「役割で輝いたカーニバル」

6月20日に行われた清水小カーニバルには、保護者の皆さんをはじめ、学校運営協議委いさんにも参観いただき、子供たちの大きな満足感に包まれた充実した1日になりました。

3年生以上の学年は、チーム担任制下で初めての大きな学校行事であることから、これまでのカーニバルと比べて、子供たちがどのように取り組むか、そして楽しむことができるか、職員で検討を重ねながら準備をしてきました。

当日は、どのクラスを訪れても、それぞれの子供たちが自分の仕事に全力で取り組んでいました。仕事をする子供も、ゲームや出し物を楽しむ子供もとびっきりの笑顔が輝いていました。行列ができ待ち時間が長いクラスもありましたが、お互いがルールを守り、大きな混乱がなく進行することができました。教員が指示をしたり、分担やルールを確認したりする姿はほぼ見られず、「自分たちで考えて準備した店を、自分たちで運営した」ことが、満足感の源になっているのだと感じました。「学校生活の主人公は子供」ということを改めて実感しました。

閉会式では、前述した子供たちのがんばりに加えて、カーニバルでわかった、これからの学校生活で大切なことについて話をしました。

みんなが頑張れたのは、自分の役割がはっきりしていたからです。役割があるとみんなの役に立てて、嬉しい気持ちになります。これからの学校生活でも「今の自分の役割はなんだろう」と考えられると、もっともっと楽しく過ごせると思います。

清水小のめざす姿である「自りつする」と「全員の居場所づくり」に、一歩近づいたカーニバルになりました。

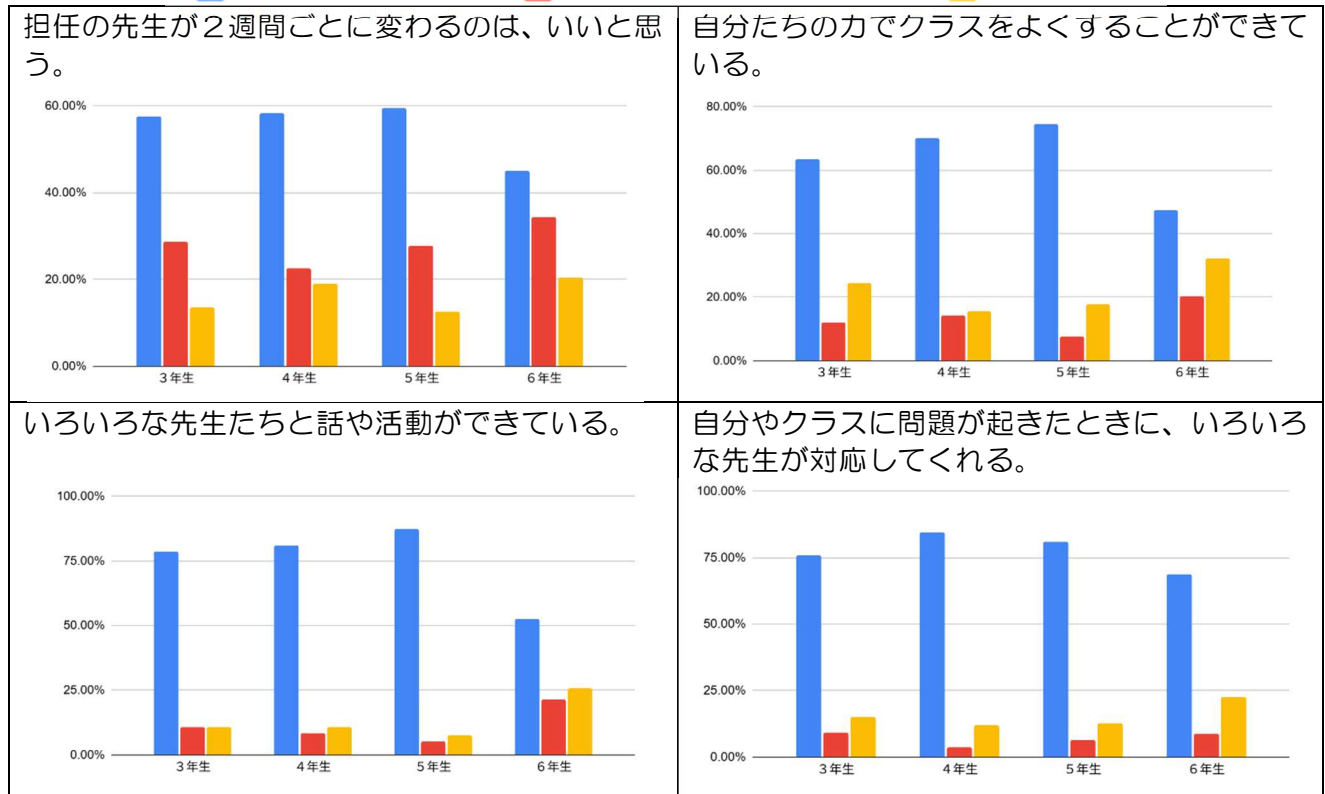
校長 武藤 剛



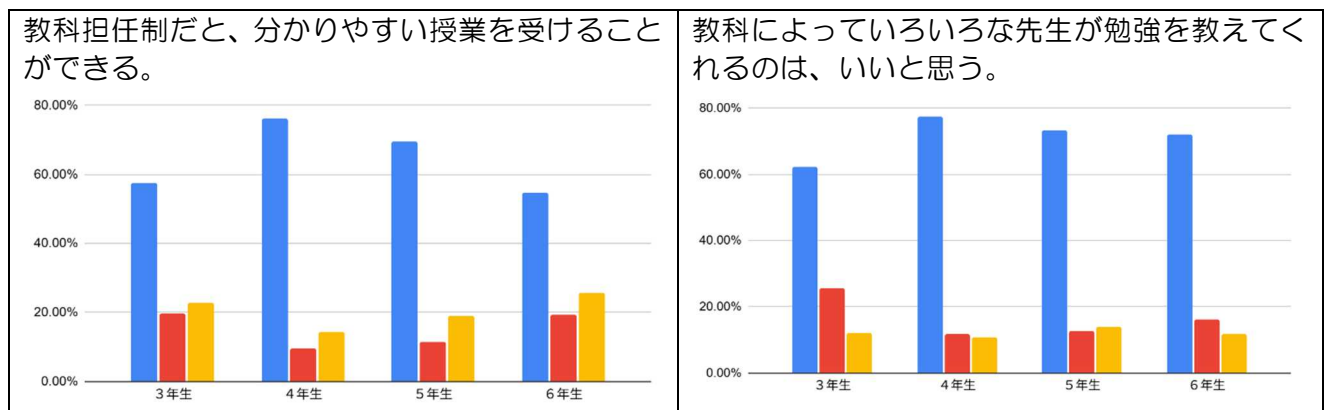
チーム担任制・教科担任制に関するアンケート

先日は、今年度新たに取り組んでいる「いずみの里プラン」に関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございます。大きく「チーム担任制（3年生～6年生）」「教科担任制」について子供たち、保護者、教職員からアンケートをとりました。現在まだ分析中ですが、子供たちのアンケート結果について少し紹介したいと思います。

■ そう思う+やや思う ■ あまり思わない+思わない ■ 分からない



学年により捉え方が違いますが、担任の先生が変わることについて、子供たちは概ね肯定的に捉えているようです。担任の先生だけでなく、学年のいろいろな先生と関わることに子供たちがよさを感じていることがうかがえます。また、自分たちの力でクラスをよくするという「自りつ」につながるあらわれには今後も注目したいです。



教科担任制についても、子供たちは概ね肯定的に捉えているようです。しかし、いずれのアンケートにも「分からない」「思わない」と答えている子が一定数います。今後も分析を進めるとともに、子供たちのあらわれをしっかりと見て、どの子にとっても「いずみの里プラン」のよさが実感できるよう、教職員一丸となり実践を重ねていきたいと思っています。